

知的好奇心を求める大人たちへ——。

男の隠れ家

2023
NOVEMBER

11

特別定価900円

作家の定宿
伝統ロゴ図鑑
宮大工の技
漆喰の魅力

文化財の宿

“時”を紡ぐ老舗宿の建築美

縦じ込み付録

温泉×紅葉
ひとり旅歓迎の宿



宮沢賢治

『なめとこ山の熊』に登場する宿

藤三旅館 (岩手県)

宮 沢賢治が小説を書いていた頃、里山には熊撃ちがいて熊の胆などが妙薬として重宝されていた。「なめとこ山」の麓にあり、「熊の胆あり」という看板を掲げていたのが「鉛の湯」。現在の鉛温泉だ。一軒宿「藤三旅館」は天明6年(1786)創業。

「賢治の愛した名湯とともに旅館の風格を守り続けたいです」と主人・庄子順さんは語る。

山の奥にある旅館で、作品の登場人物小十郎のような狩人が往来していたのが想像できる。



人気の「白猿の湯」は湯船に立って浸かる。深さは平均で1.25mほど。

ふじさんりょかん

岩手県花巻市鉛字中平75-1
☎0198-25-2311
料金/1泊2食付1万2300円～ 客室/36室
チェックイン・アウト/15:00・10:00
風呂/内湯(男女)×2、貸切風呂×1
泉質/単純温泉・アルカリ性単純高温泉
アクセス/東北自動車道
「花巻南IC」より約20分



右/豊沢川のせせらぎが間近に。左/現在は3つの棟が建つが、いずれの温泉も100%源泉掛け流し。

なめとこ山の熊

なめとこ山を縄張りとする熊捕り名人の淵沢小十郎と熊たちの不思議な物語。生活のために仕方なく熊を殺している小十郎。そのうちに熊の気持ちがわかるようになり……。どことなく賢治特有の仏教色が見られるのも注目だ。

清琴楼 (栃木県)

尾崎紅葉

『金色夜叉』に登場する宿

多 くの人が『金色夜叉』と聞けば、主人公・貫一がお宮を蹴る熱海的一幕を思い浮かべるだろう。しかし物語の後半、舞台は那須塩原へ移る。旅館で心中を図る男女を助けることで貫一の心が動く重要な場面。この宿のモデルになったのが「清琴楼」だ。「当時は『佐野屋』という名前でしたが、作中で使われていた名称を引き継ぎました」と主人の君島信浩さん。『金色夜叉』を執筆したとされる「紅葉の間」は資料室として残され、見学が可能。



作中の舞台になった本館「紅葉の間」。現在は見学のみとなっている。

金色夜叉

主人公・間貫一の壮絶な人生を、許嫁・お宮との恋愛を軸に描く。金持ちの富山の求婚になびき、自身を裏切ったお宮を熱海で蹴りつけた貫一は金権主義を恨み閻魔へと転身し……。なお執筆中に作者が没したため未完となっている。



右/『金色夜叉』で「清福自在の別境」とべた褒めした風景。左/現在、宿泊可能なのは別館(写真)と新館。

せいきんろう

栃木県那須塩原市塩原458
☎0287-32-3121
料金/1泊2食付1万1000円～ 客室/18室
チェックイン・アウト/15:00・10:00
風呂/内湯(男女)×各1、貸切風呂×1
泉質/弱食塩泉
アクセス/東北自動車道
「西那須野塩原IC」より約30分